

2023.10.22 ガザ地区封鎖について

イスラエルによって実質的に封鎖されて（燃料・水・食料などが断たれて）いるガザ地区の人道危機がさし迫っています。

ガザ地区を実効支配してきた「ハマス」によるイスラエルへの攻撃と民間人の無差別殺戮、イスラエルの「報復（過剰防衛）」による無差別爆撃・無差別殺戮はいずれも容認できるはずはありませんが、現在の人道危機と「地上戦」による更なる民間人犠牲者の拡大は何としても回避しなければならない。これは、国連事務総長だけでなく、世界の一部（欧米諸国の支配層および欧米における一定数の市民）を除けば、国際社会（欧米諸国以外の国家・政府と多くの一般市民）の考えではないかと思われます。

ただし、このような人道危機が回避され、人々が生きのびればそれでいいというものではありません。

「ハマスによるイスラエル市民に対する襲撃も非難されなければならないし、あらゆる戦争犯罪が適切に裁かれなければならない。ただ、現在おこっていることを断片的に切りとるのではなく、背後にどんな構造的な暴力があって何を取り除いていかなければならないのか、という視点が必要だ。」

「近年だけをとってもガザは周囲をぐるりと封鎖され『天井のない監獄』状態におかれていた。そのうえ今は電気も水も食料も断たれじわじわ尽きている中で、200万人の人々がどう考えても生きられないという状況。これを見ればわかるように、圧倒的な力の不均衡の中で、ガザ地区の人々の生殺与奪の権をイスラエルが握り続けてきた。まずは目先の危機をどう回避するか、ということが重要だが、『監獄の中で生きなければならない』といういびつな構造に切り込まない限り、問題の根本は変わらない。」

(10.22 「サンデーモーニング」における安田菜津紀の発言)

適切に問題を見るためには長きにわたる歴史的な脈を認識・確認することは必要ですが、ここではごく最小限の事実を列挙しておきます。

1, 19～20世紀にかけて、特に欧米各地で迫害されたユダヤ人の国家建設を1947年、国連が認めた。国連は「パレスチナの地」を（ユダヤ教の）イスラエルと（イスラム教の）パレスチナの二つの国家に分けると決議＝「パレスチナ分割決議」。

だがそれは、そこに住んでいたパレスチナ人を故郷から追い出すことだったため多くの問題を含んでいた。

2, この問題ある決議もいまだ実行されていない。二つの国家に分割するはずが、パレスチナに住んでいた人たち（中東戦争を経てガザ地区やヨルダン川西岸に逃れた人たち）は、建国すら認められなかった。「オスロ合意」によって得られたはずの自治もないに等しく、生殺与奪の権をイスラエルが握り続けている。（その現状への対応として「武力抗争も辞さない」立場をとるのがハマス。）

3, ガザ地区はいま、イスラエルによって壁で包囲され水道もガスも電気も断たれた状態でイスラエルからの陸海空による全面攻撃を受けようとしている。

この問題に関して遠藤誉が記事を公開しています。ガザ地区の現状と自らの体験（1947年に長春で中国共産党軍によって食糧封鎖され餓死体の上で野宿した経験）と重ね合わせながら、イスラエルがやっていること、やろうとしていることはジェノサイド以外の何ものでもないとしています。実感のこもった説得力ある訴えとして受け止めました。ぜひご一読ください。

2023.11.28 パレスチナ国連大使の演説

実に説得力のある演説。まったくその通りだと感じました。

